

令和3年度 第1回大阪市地方独立行政法人天王寺動物園評価委員会 議事要旨

■開催日時：令和3年10月27日（水）13:30～15:15

■開催場所：天王寺動物園 TENNOJI ZOO MUSEUM

■出席者：

（委員） 植田 麻衣子 植田公認会計士事務所 所長  
佐藤 哲也 神戸どうぶつ王国 園長  
佐渡友 陽一 帝京科学大学生命環境学部 講師  
高瀬 孝司 オフィスT 代表（委員長）  
豊島 ひろ江 中本総合法律事務所 弁護士

（大阪市） 三原 桃子 公園緑化部長  
横山 妹子 公園緑化部調整課（動物園支援担当）課長代理  
浦野 路与 公園緑化部調整課（動物園支援担当）係長

外4名

【議事要旨】

1 開会

2 地方独立行政法人天王寺動物園の状況について（報告）

資料1をもとに事務局より説明

<意見>

- ・ コロナ影響により入園料収入が落ち込んでいる。設立団体としてきちんと支援していただきたい。（高瀬委員）
- ・ 組織体制のところで、動物専門員と飼育専門員の記載が分かれているが、この形で固定化することなく、今後のあり方を検討されたい。（佐渡友委員）
- ・ 資料には保全的な活動やSDGsに関わるような活動についての記載がないが、保全と福祉は動物を管理する機関の大きなテーマなので力を入れてもらいたい。（佐藤委員）
- ・ 今後の獣舎整備にあたり、寄附金の獲得に向け、ファンドレイジングの手法を検討して行ってほしい。（佐渡友委員）
- ・ 評価にあたり、入園料外収入として挙げられている、寄付金や広告収入についても法人化による効果が出ているのか関心がある。（高瀬委員）

3 地方独立行政法人天王寺動物園の評価基準について

資料2をもとに事務局より説明

<意見>

- ・ 評価をするにあたり、動物園職員を含めて当事者の生の声が聴きたい。また、現場を見ないと

分からないこともあると思うので、そのような機会を設けてほしい。(高瀬委員・佐渡友委員・植田委員・豊島委員)

- ・ 博物館のような先行事例に倣い評価を行うが、動物園そのものの評価の制度・仕組みがあまりないので、我々がブラッシュアップする必要がある。そのために法人だけでなく評価する我々もPDCAサイクルを回しながら、お互いにブラッシュアップさせることが理想である。(佐渡友委員)
- ・ 評価委員会当日でなくてもいいので、事前に今の現状や特に力を入れてきたことの成果などについて、法人職員から直接聞いたり、現場を見たりする機会を検討してほしい。(高瀬委員)
- ・ 評価の時期および評価に対する具体的業務への反映がずれてしまうことが気になる。(前年度の評価を翌年の9月に評価が確定)前倒したりして、少しでも早く評価が動物園業務に反映できることが理想である(豊島委員)
- ・ 小項目の評価をするにあたり、「評価Ⅲ相当の例」などは数値化できるところはした方がよい。(植田委員)
- ・ 年度ごとに評価の軸がぶれないように配慮する必要がある。(高瀬委員)
- ・ 「評価Ⅲ相当の例」はあくまで例であるため、完全にこの基準だということでもないと考える。基準を明確にすることはよいことだが、今回は初めてやっていくため幅を持たせて、実際に適応するように配慮することも大切である。(豊島委員)
- ・ 法人と事務局の日常的なコミュニケーションが本質的に重要である。事務局側が実際現場を見たりした上で、市の評価案を作成した方が説得力が変わってくると思う。(佐渡友委員)
- ・ 評価対象に委託業者は含めてもいいのか。ホスピタリティの評価をするためにも、評価対象が法人職員のみなのか動物園に関わる人全体なのかを明確化してほしい。(佐藤委員)
- ・ 評価の際にヒアリングをするためにも、法人の自己評価をするにあたり各項目にかかる実務をしている担当者や根拠となる資料を共有しておくことが重要である。(植田委員)
- ・ 項目が細かく分かれているので、実践的に活かすために調整する必要がある。(高瀬委員)

#### 4 閉会